

令和2年度 第2四半期 (7月~9月)

# 景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 9.6 ポイント改善、令和元年度第2四半期からは 38.5 ポイント悪化

## ■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲54.2 (前期比+9.6、前年同期比▲38.5)、来期見通し (10月~12月) について、業況 DI 値は▲56.9 (当期比▲2.7) となった。

すべての DI 値はマイナス値ながら、緊急事態宣言解除後、徐々に経済が動き出したことで、サービス業を除くすべての業種で前期比から持ち直しの動きが見られた。一方、来期見通しについては、新型コロナウイルスの終息が見込めないため、先行きを不安視する声が多く聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 31.9 (前期比▲2.0、前年同期比▲1.2)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 31.9 (当期比±0.0) となった。

## ■製造業

業況 DI 値は▲68.2 (前期比+1.2、前年同期比▲43.2)、来期の見通しについては▲66.7 (当期比+1.5) となった。

新型コロナウイルスの影響で、医療向け分野の受注増加や新たに自社製品を開発する動きが見られる一方で、鉄道、建設機械、自動車、生産設備においては国内外とも需要停滞の声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

## ■建設業

業況 DI 値は▲25.0 (前期比+17.9、前年同期比▲21.2)、来期の見通しについては▲34.8 (当期比▲9.8) となった。

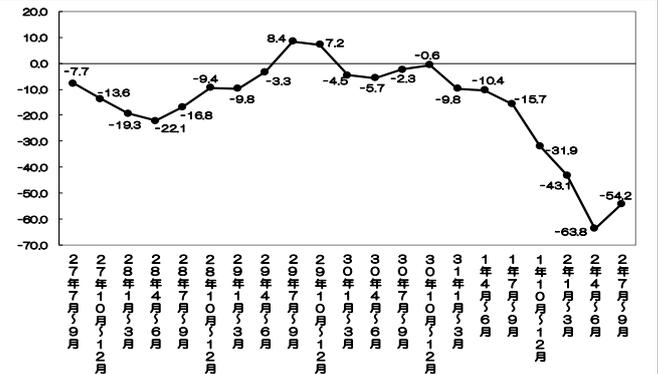
小規模リフォームの需要が増加するなど前期から好転する面も見られるが、全般的に需要は停滞している模様。来期の見通しについても、引き続き受注の停滞を不安視する声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「官公庁需要の停滞」、「民間需要の停滞」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

## 調査概要

- 調査対象
  - (1)対象地区：豊橋市内
  - (2)対象企業数：333社
  - (3)回答企業数：169社 (回答率 50.75%)
- 調査期間  
令和2年7月~9月
- 調査方法  
往復はがきによるアンケート調査
- 回答企業の内訳  
製造業 88・建設業 24・卸売業 14  
小売業 20・運輸業 13・サービス業 10

## 全業種



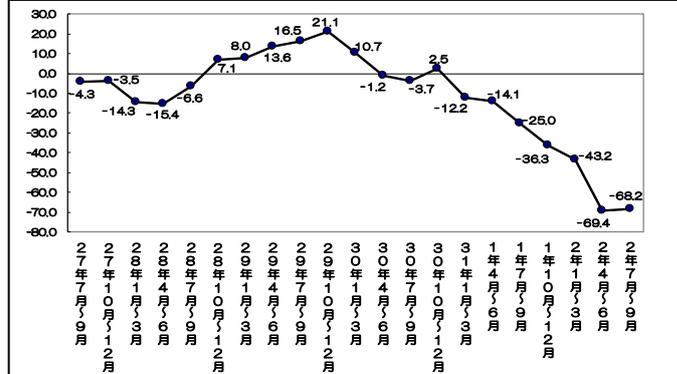
《A》 前年同期 (令和元年7月~9月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	
8.9%	28.0%	63.1%	▲54.2	↓

《B》 来期 (令和2年10月~12月) の景況見通し

良い	同様	悪い	DI 値	
6.6%	29.9%	63.5%	▲56.9	↓

## 製造業



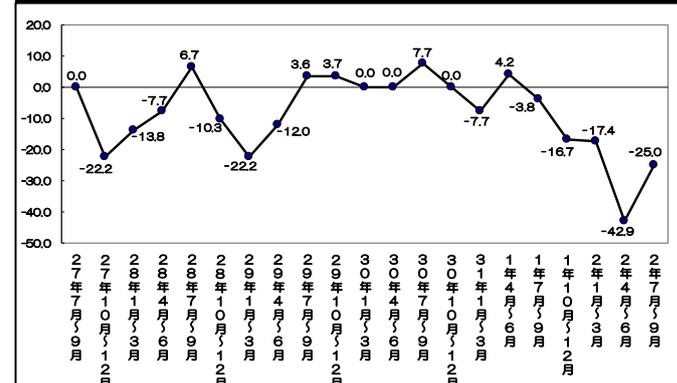
【前年同期比】 令和元年7~9月

自社の業況	▲68.2	↓
-------	-------	---

【来期見通し】 令和2年10~12月

自社の業況	▲66.7	↑
-------	-------	---

## 建設業



【前年同期比】 令和元年7~9月

自社の業況	▲25.0	↓
-------	-------	---

【来期見通し】 令和2年10~12月

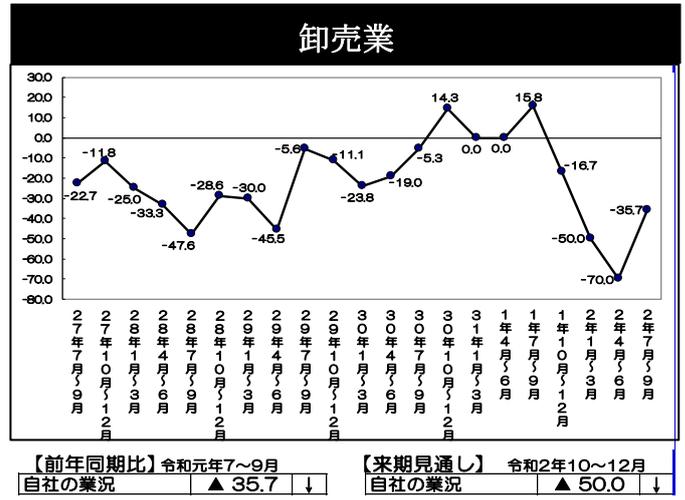
自社の業況	▲34.8	↓
-------	-------	---

## ■卸売業

業況 DI 値は▲35.7（前期比+34.3、前年同期比▲51.5）、来期の見通しについては▲50.0（当期比▲14.3）となった。

衣類卸売業では、小売店での消費の停滞により売上が減少傾向にあるとの声が聞かれる一方、リフォーム資材やレジャー用品卸売業では、在宅時間の増加の影響から巣ごもり関連商品の需要が増えているとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「販売価格の低下・上昇難」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

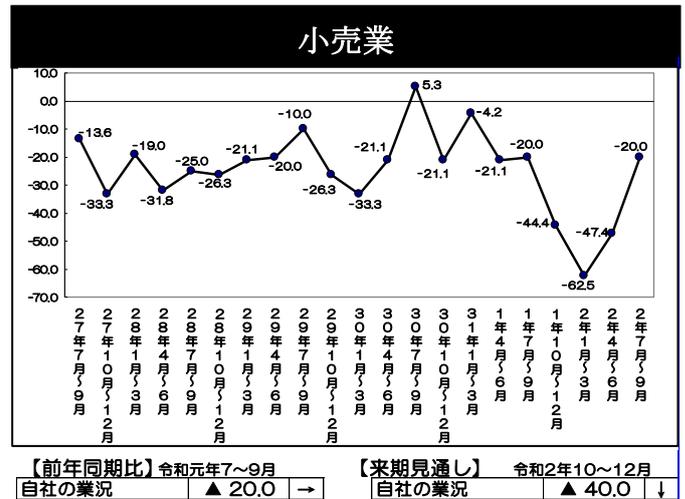


## ■小売業

業況 DI 値は▲20.0（前期比+27.4、前年同期比±0.0）、来期の見通しについては▲40.0（当期比▲20.0）となった。

食品、医療用・衛生用品は好調との声が聞かれる一方、例年に比べ夏物衣類の売上が少なかったとの声が聞かれた。石油販売店では販売量は上昇傾向にあるが、価格競争となり先行きを不安視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

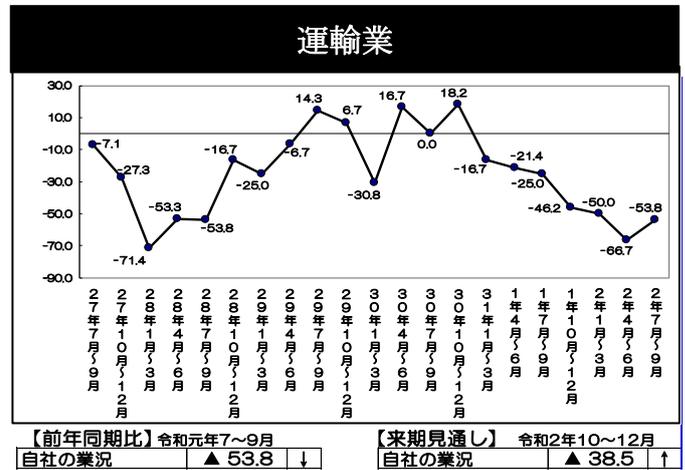


## ■運輸業

業況 DI 値は▲53.8（前期比+12.9、前年同期比▲28.8）、来期の見通しについては▲38.5（当期比+15.3）となった。

引き続き宅配・食品関係の荷動きは好調に推移しているとの声が聞かれる一方、新型コロナウイルスの影響に加え、天候不順の影響で全般的に荷動きは低調であるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



## ■サービス業

業況 DI 値は▲100.0（前期比▲10.0、前年同期比▲84.6）、来期の見通しについては▲90.0（当期比+10.0）となった。

飲食業では、外出自粛ムードによる利用の減少や宴会自粛により収益が悪化しているとの声が聞かれる他、消毒液やフェイスシールドなど感染拡大防止対策に係るコストの増大を懸念する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者ニーズの変化への対応」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

